



2016年12月19日

各 位

会 社 名 株式会社トランスジェニック
代表者名 代表取締役社長 福永 健司
(コード番号 2342 東証マザーズ)
問合せ先 取 締 役 船 橋 泰
(電話番号 03-6693-9571)

新規肺がんマーカーに対する抗体ならびにその診断応用に関する特許が米国にて成立

株式会社トランスジェニック（代表取締役社長：福永健司、福岡市）と国立研究開発法人国立がん研究センター（理事長：中釜 斉、東京都中央区、以下「国立がん研究センター」）は、新規肺がんマーカー変異型 α -アクチニン-4 に対する抗体ならびにその診断応用に関して、2011年9月9日に共同で国際特許出願しておりました。このたび、米国において特許が成立しましたので、お知らせいたします。

【概要】

このたび成立しました特許は、国立がん研究センター研究所創薬臨床研究分野・本田一文ユニット長、山田哲司主任分野長らが発見した小細胞性肺がん等の診断に有用な新規腫瘍マーカー変異型 α -アクチニン-4 に対する抗体を GANP®マウス技術を用いて作製したものです。本成果により、小細胞性肺がん等の患者に存在する本マーカーの検出および診断精度の向上を図ることが可能になります。

今後、当社は当社が有する知的財産権の収益化の一環として、小細胞性肺がん等の診断に有用な簡易検出システムの診断薬メーカーへのライセンスなど実用化に向けた取り組みを進めます。

なお、本特成立による 2017年3月期の業績への影響はございませんが、当社は引き続き、将来的に収益につながるようバイオマーカー抗体創出やタンパク質関連の技術プラットフォームの充実を図ってまいります。

◆ご参考：小細胞性肺がん

小細胞性肺がんは、肺癌全体の約 20%とされていますが、肺がんの中で最も進行が早く、殆どの場合、多臓器転移を伴う進行がんとして発見されることから、高い悪性度と予後不良で知られる疾患の一つです。そのため、早い病期での診断精度を向上させることが強く求められています。

：GANP®マウス技術

GANP (Germinal Center Associated Nuclear Protein) とは、大阪大学 阪口薫雄教授らにより発見された遺伝子で、抗体を産生するB細胞で発現しています。

GANP®マウス技術とは、この GANP 遺伝子を過剰に発現させた GANP®マウスを用いて抗体を作製する技術です。GANP®マウスで得られる抗体は、親和性や特異性の高いことが特徴で、診断薬や抗体医薬の開発への展開が可能です。

以上